

全 A ネット就労支援セミナー in 小倉

第一部（シンポジウム）実施報告まとめ

テーマ：これでいいのか A 型制度！－全 A ネット A 型のあり方検討会 キックオフ－

【日時】2025 年 10 月 25 日（土）14:20～

【会場】小倉リーセントホテル（福岡県北九州市）

【登壇者】

コーディネーター：村木 太郎 氏（全 A ネット理事）

シンポジスト：・福田 裕士 氏（株式会社ジルベルト 代表取締役）

・小野寺 徳子 氏（元厚生労働省 障害者雇用対策課長）

・朝日 雅也 氏（埼玉県立大学 名誉教授）

【1. 第一部の趣旨】

第一部では「これでいいのか A 型制度！」をテーマに、就労継続支援 A 型事業所を取り巻く現状を整理するとともに、今後 A 型が果たすべき役割や方向性について、多角的な立場から議論が行われた。

制度開始から約 20 年が経過する中で、A 型をめぐる課題が顕在化しており、本シンポジウムは全 A ネットとして今後検討を深めていくためのキックオフとして位置づけられた。

【2. 現状整理（コーディネーター説明）】

障害者就労全体では、福祉的就労に加え、企業で働く障害者が増加している中、A 型事業所は「福祉サービス」と「雇用（経済主体）」の二重性を持つ点が最大の特徴であることが示された。

利用者の精神障害者割合の増加や高齢化が進む一方、A 型利用者の平均賃金は徐々に上昇しており、現場の努力の成果も確認された。

また、スコア方式改定以降、事業所の二極化が進み、多数の解雇者が発生していることが課題として共有された。

【3. 実践報告（福田裕士氏）】

福田氏からは、A型事業所を「疑似社会」「疑似企業」として位置づけ、一般就労を前提とした事業運営の実践が紹介された。

生産活動の徹底や人事評価制度の導入を通じて、B型からA型、A型から一般就労への移行を実現してきた実績が報告され、A型制度の可能性が示された。

【4. 雇用サイドからの視点（小野寺徳子氏）】

小野寺氏からは、障害者雇用における「雇用の質」の重要性が示され、A型は雇用契約の緊張感と福祉的支援を併せ持つ、企業に最も近い就労の場であると評価された。

一方で、A型が何を指す制度なのかが分かりにくくなっていることが、制度を巡る議論の難しさにつながっているとの指摘があった。

【5. 研究・福祉の視点（朝日雅也氏）】

朝日氏からは、インクルーシブ就労の理念を踏まえつつ、現実的にはA型のような中間的な就労の場が不可欠であるとの見解が示された。

A型は一般就労への移行機能だけでなく、雇用としてのセーフティネットや地域で働き続ける場としての役割も担っていることが整理された。

【6. まとめ】

第一部を通じて、A型事業所は不要な制度ではなく、今後も社会的に重要な役割を果たす存在であることが確認された。

一方で、その役割や位置づけを社会に分かりやすく示していく必要性が共有され、全Aネットとして「A型事業所のあり方研究会」を立ち上げ、今後検討を深めていくことが宣言された。